

2020阿波おどりについて

1 開催中止決定までの過程

4月 7日（火） 実行委員会打ち合わせ（非公開）

- 事業体も参加
- 2～6ページ使用（数値等は当時の状況）
- 新型コロナウイルス感染症の現状認識
- 開催の是非決定のスケジュール感の確認

[事務局への指示等]

- ゴールデンウィーク前には開催是非の判断が必要
- 判断材料として運営協議会の意見を聞くこと
- 新市長の意向も確認しておくこと

4月 9日（木） 阿波おどり運営協議会へ意見聴取の文書発送

- 実施、延期、中止、その他の4項目のほか、自由記述欄あり
- 4月17日（金）締め切り

4月10日（金） 運営協議会に対し意見聴取中であることを記者提供

- この結果も踏まえ、4月下旬に決定することを周知

4月14日（火） 新市長の意向確認

- 開催の是非決定のスケジュール感の確認
→ ゴールデンウィーク前には判断が必要

4月21日（火） 2020阿波おどりの開催中止決定

午 前：徳島市内で新たな感染者を確認

→ 市長より実行委員会に対し中止要請

午 後：市長の意向、資料（2～9ページ）、市内の発生などを各委員に説明のうえ、全員から書面にて中止承認を確認し、実行委員会で中止決定。事業体に連絡。

18時：市長記者会見により中止報告

4月22日（水）～ 議会へ報告

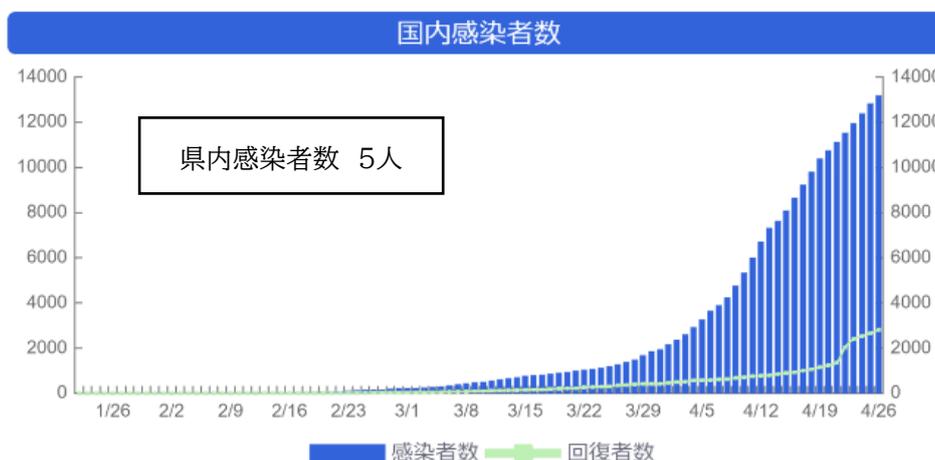
2 新型コロナウイルス感染症の発生状況

<出典> 国内:4月26日時点 厚生労働省発表 更新日時:4月27日8時00分
 国外:4月26日時点 WHO発表・Johns Hopkins CSSE、クルーズ船:4月26日時点 厚生労働省発表

国内		国外	
感染者数 13,182 (前日比 +349)	死亡者数 348 (前日比 +14)	感染者数 2,790,902 (前日比 +84,546)	死亡者数 193,349 (前日比 +5,991)
回復者数 2,815 (前日比 +153)		回復者数 861,163 (前日比 +47,253)	

その他、横浜港に到着したクルーズ船：感染者数 **712** 死亡者数 **13**

※各数値は厚生労働省の発表に基づき、修正される場合があります ※国内の感染者数には、長崎県のクルーズ船における陽性者数を含みます



【新型コロナウイルスを巡る国内の主な動き】

- 1月 15日 国内で新型コロナウイルスの初感染者を確認（神奈川県）
- 2月 13日 「新型コロナウイルス感染症に関する緊急対応策」決定
- 2月 25日 「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」決定
- 3月 10日 「新型コロナウイルス感染症に関する緊急対応策－第2弾－」決定
- 3月 14日 改正「新型インフルエンザ等対策特別措置法」施行
- 3月 28日 「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」決定
- 3月 26日 新型インフルエンザ特措法に基づく政府対策本部を設置
- 4月 7日 7都府県に対し特措法に基づく「緊急事態宣言」を発令（～5/6）
- 4月 16日 「緊急事態宣言」の対象地域を全国に拡大

3 国から示されている対処方針等

(1) 内閣官房新型インフルエンザ等対策室（抜粋）（令和2年3月23日）

全国規模の大規模イベント等の開催については、中止、延期、規模縮小等の検討をお願いしてきたところですが、今回、専門家会議から大規模イベント等について、主催者がリスクを判断して慎重な対応が求められるとの見解が示されたことから、今後は、主催者がこれを踏まえた判断を行う場合には、感染対策のあり方の例も参考にしてください。

(2) 「新型コロナウイルス感染症対策専門家会議」（抜粋）（令和2年3月19日）

地域における感染者の実情やその必要性等にかんがみて、主催者がどうしても開催する必要があると判断する際には以下①～③などを十分注意して行っていただきたい。

- ① 人が集まる場の前後も含めた適切な感染予防対策の実施※
- ② 密閉空間・密集場所・密接場面などクラスター（集団）感染発生リスクが高い状況の回避
- ③ 感染が発生した場合の参加者への確実な連絡と行政機関による調査への協力

※ 多くの人が参加する場での感染対策のあり方の例（概要）

- **人が集まる場の前後も含めた適切な感染予防対策の実施**
 - ・ 会場に入る際の手洗いの実施ならびに適宜手洗いができる場の確保
 - ・ 手が触れる場をアルコール等で定期的に拭き取り
 - ・ 飛沫感染等を防ぐための徹底した対策
- **クラスター（集団）感染発生リスクが高い状況の回避**
 - ・ 換気設備の適切な運転・点検の実施。定期的な換気の実施
 - ・ 人を密集させない環境の整備
- **感染が発生した場合の参加者への確実な連絡と行政機関による調査への協力**
 - ・ 感染者がでた場合、参加者への連絡や、保健所などの公的機関に連絡がとれる体制の確保
- **その他**
 - ・ 食事の提供は大皿などでの取り分けは避け、パッケージされた軽食を個別に提供する等の工夫をする

【集団感染が確認された場に共通する3つのリスク】

- 1 換気の悪い密閉空間であった
- 2 多くの人が密集していた
- 3 近距離（互いに手を伸ばしたら届く距離）での会話や発声が行われた

(3) 「新型コロナウイルス感染症対策専門家会議」(抜粋)(令和2年4月1日)

国からは具体的な3つの地域区分が示されており、徳島県は直近1週間で新規感染者が確認されていないことから「③ 感染未確認地域」に該当する。

ただし、本基準は緊急事態宣言が発令される前に決定されたものであり、全国的な感染拡大を抑制するため緊急事態宣言が全国を対象地域として発令(4月16日)されたことに留意が必要である。

① 感染拡大警戒地域

区分	内容
定義	直近1週間の新感染者数やリンクなしの感染者数が、その1週間前と比較して大幅な増加が確認されているが、オーバーシュートと呼べるほどの状況には至っていない
想定される対応	○ 期間を明確にした外出自粛要請 ○ 10名以上が集まる集会・イベントへの参加を避けること ○ 家族以外の多人数での会食などは行わないこと

② 感染確認地域

区分	内容
定義	直近1週間の新規感染者数やリンクなしの感染者数が、その1週間前と比較して一定程度の増加幅に収まっており、帰国者・接触者外来の受診者数についてもあまり増加していない状況にある地域
想定される対応	○ 人の集まるイベントや「3つの密」を徹底的に回避する対策をしたうえで、感染拡大のリスクの低い活動については、実施する ○ 屋内で50名以上が集まる集会・イベントへの参加は控える ○ 感染拡大の兆しが見られた場合には、感染拡大のリスクの低い活動も含めて対応を更に検討していくこと

③ 感染未確認地域

区分	内容
定義	直近の1週間において、感染者が確認されていない地域
想定される対応	○ 屋外でのスポーツやスポーツ観戦、文化・芸術施設の利用、参加者が特定された地域イベントなどについては、適切な感染症対策を講じたうえで、それらのリスクの判断を行い、感染拡大のリスクの低い活動については注意しながら実施する ○ その場合であっても、急激な感染拡大への備えと、「3つの密」を徹底的に回避する対策は不可欠

(4) 新型インフルエンザ特別対策措置法に基づく緊急事態宣言

① 期間

令和2年4月7日から5月6日まで

② 対象地域

令和2年4月16日より対象地域を全国に拡大

③ 緊急事態宣言発令時の措置

- 市町村の対策本部を設置
- 外出自粛要請、遊技場、遊興施設、催物等の制限等の要請・指示
- 住民に対する予防接種の実施（国による必要な財政負担）
- 医療提供体制の確保（臨時の医療施設等）
- 緊急物資の運送の要請・指示
- 政令で定める特定物資の売渡しの要請・収用
- 埋葬・火葬の特例
- 行政上の手続に係る期限の延長等（運転免許証等）
- 生活関連物資等の価格の安定（国民生活安定緊急措置法等の的確な運用）
- 政府関係金融機関等による融資

4 全国的な大規模イベント（5月～）の検討状況

新型コロナウイルス感染症の世界的流行を受けて、今夏に予定されていた東京オリンピック（7/24～8/9）・パラリンピック（8/24～9/5）は来年への延期が決定された。

それに続いて、国内で開催を予定していた全国的な大規模イベントについても次々と中止が発表されており、毎年、阿波おどりと同時期に開催されている東北三大祭り（青森ねぶた祭り、秋田竿燈まつり、仙台七夕まつり）も既に中止が決定している。

名称	方針	5月	6月	7月	8月	9月以降
阿波おどり 120万人	検討中				○ 8/12-15	
ひろしまフラワーフェスティバル 160万人	中止	○ 5/3-5				
博多どんたく港まつり 200万人	中止	○ 5/3-4				
京都葵祭り	中止	○ 5/15				
仙台・青葉まつり 90万人	中止	○ 5/16-17				
YOSAKOIソーラン 200万人	中止		○ 6/1-14			
博多祇園山笠 300万人	中止			○ 7/1-15		
京都祇園祭り	中止			○ 7/1-31		
湘南ひらつか七夕まつり 150万人	中止			○ 7/3-5		
長岡まつり大花火大会 100万人	中止				○ 8/2-3	
弘前ねぶた祭り 160万人	中止				○ 8/1-7	
青森ねぶた祭り 280万人	中止				○ 8/2-7	
秋田竿燈まつり 130万人	中止				○ 8/3-6	
山形花笠祭り 100万人	検討中				○ 8/5-7	
仙台七夕まつり 220万人	中止				○ 8/6-8	
よきこい祭り 100万人	検討中				○ 8/9-12	
高円寺阿波おどり 100万人	検討中				○ 8/22・23	
長崎くんち 20万人	中止					○ 10/7-9

5 運営協議会委員に対する意向調査結果

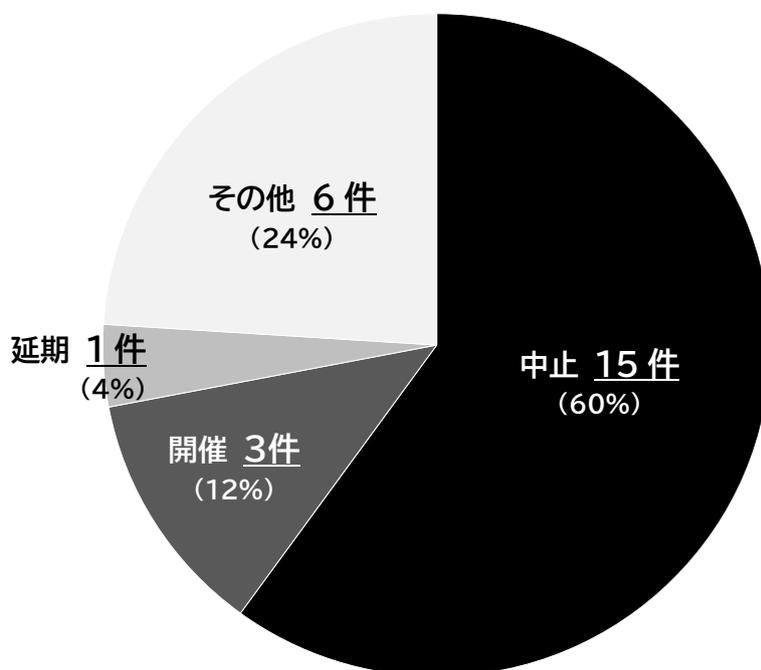
(1) 調査内容

- ① 調査対象 阿波おどり運営協議会委員 25名
- ② 調査期間 令和2年4月9日(木)～17日(金)
- ③ 調査方法 書面による調査
- ④ 調査項目 問1 2020阿波おどりの開催方針(開催、延期、中止、その他)
問2 その他の自由意見

(2) 調査結果

問1 2020阿波おどりの開催方針(開催、延期、中止、その他)

- 「その他」については、組織として開催判断に関与できないといった意見や中止も考えられるが現時点では判断できないという意見であった。
- 運営協議会からは「中止」を求める意見が最も多く、判断しかねると回答した「その他」を除くと約8割が中止すべきという意見であった。



問2 その他の自由意見

【安全を最優先すべきとの意見】

- 今年の夏こそはと願っているが、踊り子の健康や来県された方々の安全等をももちろん優先すべきである。
- 現状を踏まえればコロナウイルスの感染防止は何よりも優先すべきであり、安全を考えれば学生の阿波おどり練習や本番参加などは考えられない。
- 夏に終息していることを前提に阿波おどりを計画するよりも、終息時期が不透明な現在の状況を重く受け止め、中止にすべきである。
- 万全な感染症対策が講じられない以上、来場者や踊り子、そして市民の安全確保を最優先すれば中止もやむを得ないと考える。
- 中国の感染状況を踏まえると、11月に初めての感染が確認されてから収束まで6か月かかっており、2月に初めて確認された日本ではどんなに早くても収束に向かうのは8月以降になるため、8月の阿波おどりは無理である。

【他都道府県の状況を考慮すべきとの意見】

- 他県ではイベントの中止が出ており難しいと思う。また、日程が四国の夏祭りとして流れているので、高知や香川等との関連もある。
- 東京オリンピック・パラリンピックの1年延期をはじめ、8月上旬開催の長岡まつり大花火大会や東北3大夏祭りの中止が決まり、「新型コロナウイルスのワクチンや治療薬ができるまでは終息しない」という専門家の指摘もある中で、阿波おどりの予定通りもしくは延期しての開催は、万全の感染防止対策に加え、開催理由について県内外への十分かつ合理的な説明が求められる。
- 昨年も台風の影響により中途半端な開催になったので今年はずいぶん開催をと考えていたが、準備期間を考慮すると早期に判断した方が良い（青森のねぶたや仙台の七夕が中止になったように）。
- 他の都道府県が夏に向けた各種の催し物を中止する中で、徳島県だけが阿波おどりを開催することは考えにくいのではないか。
- コロナウイルス感染のニュースが毎日流れており、国内の大型イベント（祭りなど）も中止が発表されているため、今年は中止すべきでは。
- 時期が近い全国の祭りの開催状況を踏まえ判断する必要がある。
- 全国的に新型コロナウイルス感染症が拡大し、緊急事態宣言が発令される中、近々には終息は見込めないと考える。また、全国各地の大型イベント（東北三大祭り等）が相次いで中止になっている中、4日間で120万人の人々が集う「阿波おどり」も例外ではなく、大型イベントゆえ準備にも大幅な時間が要するものであり、短期間で開催できるようなものではないと考える。このような現状を踏まえ、今年度の「阿波おどり」は中止にせざるを得ない。

【延期に関する意見】

- 10月、11月に延期も考えられるが、そこには秋の阿波踊りがある。徳島の町をあげての阿波踊りはできないが、2021年に向けて夏の阿波踊りをアピールするため、1日ぐらいは町をあげてのイベントを考えても良いのでは。
- 伝統文化としての阿波おどり振興は必要であるため、秋の阿波おどりや春節に合わせたPRイベントを検討し、ブランド向上に努めてはどうか。

【踊りの練習などに関する意見】

- 現時点の状況で考えると踊りたい気持ちはあるが、難しいと判断する意見が多数。練習も出来ていないので早く決めて欲しい。
- 今年は、阿波おどり開催に向けた関係者の熱意が高い一方で、新型コロナウイルス感染の行方が見通せない上、本番に向けた練習が十分にできるか不安を抱く人もいるという未曾有の事態にある。
- 感染拡大の防止に向けてこの時期の練習を控えるのは至極当然のことであるし、この状況が5月、6月になって改善するとは思えない。
- 各連の踊り子もまったく練習ができていないとのこと。
- 有名連の関係者に話を聞くと「遅くとも4月下旬または5月の連休明けには決めないと準備も練習も間に合わない」とのこと。

【慎重な判断を求める意見】

- 6月中に収束が見えたら開催可能なら、もう少し結論を遅らせてはどうか。
- 5月一杯は状況を見て、それから判断しても良いのではないか。
- 現状では感染症対策を「万全にして行える」と言うのは困難と考えられるが、今、国をあげて取り組んでいる最中なので現時点では判断できない。

【その他の意見】

- 予定どおり実施して欲しいが、ウイルスの感染が広がると大変であるため感染症の専門家の意見を聞いた上で、実行委員会と運営協議会の意見を取りまとめて判断すべきでは。
- 学生は授業開始が遅れていることもあり、お盆期間中の参加は困難である。
- いずれの場合にせよ、阿波おどりの将来に様々な影響を及ぼす判断ともなり、「阿波おどり実行委員長になる」と公約している内藤新市長の判断への関与を検討しても良いのではないか。
- 判断に際しては医療面の専門家の見解も聞いて欲しい。
- 新型コロナウイルス感染症の終息の見込みを考慮しつつ、時期が近い全国の祭りの開催状況を踏まえ判断する必要がある。
- 新しく着任された内藤市長を中心とした組織の中で、人々に愛される健全な事業運営に向け、これまでの経過と検証を十分行っていただくとともに、現場に携わる人たちとの意見交換（対話）の場を作っていただきたい